

# DEBUT 首長

長野県小諸市長 柳田 剛彦氏



やなぎだ・たけひこ 1939年長野県小諸市生まれ。57年上田松尾高校（現上田高校）卒。実家の建設資材会社に入社後、91年から社長。93年から6年間、小諸商工会議所の副会頭を務める。4月の市長選で初当選。民間出身の市長誕生は36年ぶり。趣味は謡曲。72歳。

## 地域資源掘り起こし産業育成 市役所建て替えて文化ゾーン

**小諸市** 長野県東部に位置し、千曲川が中央を流れ自然が豊か。中山道・甲州街道の交通の要衝として栄えた。人口約4万4000人。

——36年ぶりの民間出身市長だが経験をどう生かすか。

地域資源を活用した産業の育成に力を入れる。たとえば市内の耕作放棄地で栽培した菜の花からつくる菜種油は無添加で香り高いと評判で、県内のホテルにも採用されている。地場製品の生産・加工・販売が連携した6次産業化を推進し、雇用の創出と所得向上を目指したい。

年内にも専門家を交えたプロジェクトチームを立ち上げ、どのような形で進めていけばいいか協議を始める。企業経営で培ってきた経営感覚を産業育成にフルに生かす。県内外へ積極的にトップセールスにも赴きたい。

小諸市は坂が多い「坂の町」。その地形を生かし、さまざまなタイプのミニ小水力発電施設の設置も検討している。発電装置は設置時だけでなくメンテナンスなどにも幅広い需要を生み出

す。農業を核とした6次産業化と自然エネルギーの分野は市内で育つ産業として育てていく。

——北陸新幹線の金沢延伸を控えるが、観光施策は。

避暑地として有名な軽井沢町、県東部経済の中心となった佐久市の2つの新幹線沿線自治体に囲まれ、新幹線の通らない小諸市の存在感は残念ながら薄いのが現状だ。ただ、延伸開業が2015年に迫っていることから、今後は観光客を素通りさせないためにも広域的な観光ルートの構築が待たなしになる。

小諸市内には県内有数の花の名所である「懐古園」など風情豊かな観光資源が多くある。これらを周辺市町村の観光地と組み合わせれば、北陸や首都圏から市内へ人を呼び込むことができるはずだ。

——選挙戦では「対立から対話へ」を訴えた。

長野県厚生農業協同組合連合会（JA長野厚生連）が運営する小諸厚生総合病院の移転問題で、前市長の市政の進め方について「経過がよくわからない」と問題視する向きが大きかった

ことが出馬のきっかけ。市民に十分説明し、意見をよく聞いたうえで市政を進めるという基本を大事にすると訴えた。

同じく建て替えが必要な市庁舎はもともと立派な学校があった場所に建っている。市役所の近くには島崎藤村も教鞭を執った小諸義塾をルーツにもつ図書館もあり、文教の香り高い土地柄だ。市庁舎の建て替えによって一度、この地域を文化ゾーンとして発展させていきたい。市民や関係者には丁寧な説明を徹底したい。

——子どもや高齢者の支援にも力を入れる。

就任以来、病院の移転問題にかかりきりになっていたが、少しずつ独自色を出していく。市内のタクシー会社の協力を得て、最寄りのバス停まで送迎する「デマンドタクシー」制度や、未来を担う子どもに対しては、高校・大学の進学者に対する奨学金の上乗せを検討していく。

（長野支局 学頭 貴子）